

カガカチケイヌコウ 加賀鐵冶系圖考 神戶鑿牛軒の著。鑿牛軒は文化・文政頃の加賀藩士神戶盛矩で、當時開墾してゐた鐵冶家に就き、その系圖等を調査してこの書を成したものであるといふ。

カガカハ 加賀革 加賀から産する大鼓・小鼓の革は名品と稱せられた。大鼓革にあつては奈良の産がよかつたが、小鼓革は殊に加賀のものを優等とせられた。雪女五枚羽子板に『あからの胸に加賀革くれ、くれなるの調べ緒千鳥がけにかけさせ』とある。加賀藩では時々小鼓革を幕府に進献することがあり、爲に天和三年十二月廿五日その他國に輸出を禁ずるの令を發してゐる。

カガキ 加賀記 一冊。越賀雜記又は越賀記といふものゝ下巻で、加賀志ともいひ、一向一揆時代の加賀の事を記してある。その上巻には越前記の外題があるものもある。

カガギヌ 加賀絹 加賀に絹を産すること、延喜民部省式に加賀國絹百六十二疋とし、主計式の加賀國の調にも記載したるを初見とする。又義經記にも、富樫介が辨慶に加賀の上品五十疋を與へたと記され、道興准后の回國雜記に『同じ國もとをりを通り侍りけるに、人のきぬを織けるを見侍りて。誰かもとおりそめつらんよろこびを加ふる國のきぬのたてぬき』といひ、近代にては駿府政事録に、慶長十九年七月十三日前田利長の臣前田對馬守外三人が家康に謁した時にも、各加賀絹五十疋を獻じたことがある。絹布重寶記に

へる銘の絹あり。是に類する絹なし。殊に佳品なり。右の札に梶井といふ判をすまたり。』とあり、西鶴の三代男には『是より北國のさかひ金澤を見ばやと本道に出で、千代のためしの小松につきぬ。是なん加賀絹の在所にて、家毎に女系機の業云々』と記してゐる。

カガクウケコウ 加賀郡家考 一冊。津田鳳卿著。河北郡小坂庄三池は王朝の郡衙のあつた地で、その村の神社は式内郡家神社であり、三池はみやけの轉訛なることを漢文で書いてある。

カガクドウダン 下學老談 二冊。富田景周著。藩侯の先祖代々徳義武功等、三國領分次第並中古在城の地、御同姓のあらまし、その他藩士の行狀等に就き日常心得べき條項を擧げて説明したもので、本多政登の序、文化六年十二月與村尙之の跋、七年六月前田孝始の跋がある。又重修下學老談は、前著の條目を加減し、自註を添へ、文章を洗練したものである。

カガコクフコウ 加賀古國府考 一冊。津田鳳卿著。能美郡國府村の地が、王朝の國府で、その附近に古蹟の残れることを記してある。

カガコセキコウ 加賀古跡考 四冊。楠部肇著。一郡を一冊とし、發端に郡名の起源、郷庄の名稱を注釋し、次に古今地名考・古城跡・延喜式内神社附郷村神社故實・寺院古跡附釋門故實・雜事傳説・名所山川・古今産物に編みこまれてゐる。

カガコトウ 加賀後藤 加賀に土着した白銀師後藤氏の意味で、越後から來た後藤清重の系に屬するものを指す。

カガゴトウ 加賀後藤 加賀藩の祿を受けた後藤氏の意味で、京都在住上後藤といはれた後藤覺乘、及び下後藤といはれた後藤顯乘の統を受けるものをいふ。

カガコバン 加賀小判 加賀藩の初期に於いて鍛造した小判金の總稱で、牛舌小判金・雁金小判金・上字小判金・上字雁金小判金・加賀小判金・梅輪内小判金・菊小判金・桔梗小判金等の種類がある。↓キンカ 金貨。

カガゴホリ 加賀郡 加賀郡の名はもと賀我又は加賀國造の治所であつたから起り、三越分置に及んで越前に屬した。郡名の初見は正倉院文書天平三年二月の越前國正稅帳で、次いで天平五年閏三月の越前國郡帳にもその名がある。萬葉集には天平勝寶元年十二月越前掾大伴池主の書翰に到來加賀郡境の語見え、天平勝寶七年九月の越前國雜物收納帳に加賀郡がある。續日本紀には、天平寶字五年二月に越前國加賀郡少領道公勝石があつて處割せられ、同六年十月渤海國使を越前國加賀郡に安置供給し、寶龜七年十二月紀には渤海使人また越前國加賀郡に漂着したことがある。日本輿異記には、越前加賀郡人横江臣成刀自女の事蹟を記して寶龜元年のことなりとし、康永の風仁九年酒人内親王施入帳

年三月加賀國の置かれた時之に屬し、同年六月四日加賀郡管郷十六驛四の中、八郷一驛を割いて石川郡とした。かくて加賀郡の名は、仁和元年二月紀に、加賀郡彌勒寺の定額に與つた條にも見えるが、その後室町時代に至つて河北郡となり、藩政の後寛文十一年五月四日前田綱紀は命じて加賀郡に復舊せしめ、更に元祿十三年八月二十日再び河北郡に改めて今に及んだ。

カガサンガジ 加賀三ヶ寺 一向宗にて蓮如上人の頃波佐谷松岡寺蓮綱・山田光教寺蓮雲・若松本泉寺蓮悟を加州三ヶ寺といふた。このことは本願寺作法之次第に見える。

カガシチヨウ 加賀志微 十三卷。加賀の中金澤を除いた四郡の地誌である。その第一卷は建國の濫觴國號の起原等に初る總説で、第二卷以下各郡別に郷村の叙を追うて、名山・大川・勝蹟・舊蹟・神社・佛閣・城跡・館址等に就いて記載してある。この書は森田平次が草稿を残して歿したのを、昭和十二年樹子外與吉の整理したものである。

カガシヨンジヤエング 加賀諸神社縁起 一冊。國內有名神社の縁起を集録したもので、その縁起の年號を記してある。元祿から嘉永に至るものが交つてゐる。

カガシンジヤ 加賀神社 河北郡湯端新にあつて、前田綱紀を祭る。湯端新は元來湖畔原萩の地であつたが、延喜元年侯は藩の窮民收容所である石川郡笠舞の御小屋から男女四十八人を擧んで二十四組の夫婦をつくり、ここに移して新田の開墾に従事せしめた爲、彼等は惣ち家持・田地持となつた。因つて侯の

に糸を割合せて織なり。すべても加賀には
甲冑師が製作した籠手で、冠被・座盤・襦・袴